

災害の中で見えた支援の輪・地域の輪 く発揮された地域力とはく



北海道に相次いで上陸した台風9号・10号の影響による大雨で8月31日、町内の河川や排水路の増水・氾濫が相次ぎ、多くの被害が発生しました。

そのような中、町内では町内会やボランティアによる助け合い活動が行われ、その活動は被災者や独居老人等への大きな助けとなりました。



今回の大雨によって新得市街、屈足市街、農村地区の一部に水を供給している新得浄水場の取水口と水道管が損壊し、8月31日から9月17日まで18日間断水が続きました。

また、多くの川が増水・氾濫し、地盤が削られ、家が流されたほか、床下・床上浸水となったところでは、家のまわりに流木や泥が溜まり家から出られない、物置の道具が泥まみれで使用不可能になったなど様々な被害がでました。

「断水」と「浸水」

長期間続いた「断水」や家屋などへの「浸水」により、様々な問題が町民に降りかかりました。

「断水」により、給水所から飲料水・生活用水の運搬をしなければならず、「交通手段がなく、給水所まで遠い」「水のタンクが重くて持ち運びがづらい」などの声や床上浸水した家では、水が出ないため清掃に苦労していました。

また、「浸水」によって家の中や周辺に汚泥や流木が滞留し、取り除くことも個人の力ではどうにもできない状況となっていました。

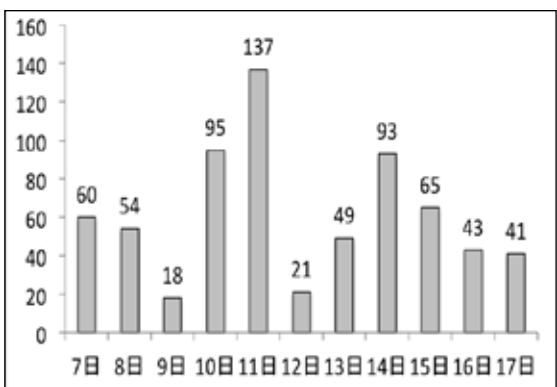
広がる助け合い・支援の輪

特に高齢の方にとっての「水が欲しいけど、重くて運べない」「給水所まで行く手段がない」という問題に支援の手を差し伸べたのは、町内会やボランティアの方々です。一部の家では地下水を引いており、「水が出るので入浴や洗濯、給水に使用してください」と声をかけてくれている人もいました。

9月2日には、ボランティアによる要支援者への給水支援が開始されるとともに、町内会によって、1人1軒の担当を決め、給水所が撤去されるまで毎日水を運ぶとともに声かけを行っているところもありました。



「浸水」による泥や流木の除去には、付近の住民のほか大勢のボランティアが協力してくれました。9月7日に設置されたボランティアセンターでは、被災した方からの要望を聞き、そこにボランティアとして登録された人たちを派遣。主な仕事は、被害家屋での泥出しや家財運び、内部清掃などで、ボランティア活動には、延べ676人が参加しました。



9月7日～17日までのボランティア延べ人数

災害対応での課題

今回の災害での「断水」「浸水」のほかに問題や意見として多かったのは、「情報伝達」に関してです。避難や断水の広報、災害関連情報の提示などの改善を求める声がありました。

①避難や断水の広報

避難や断水の広報は携帯電話のエリアメールの他、消防と役場の広報車で町内を回って行われました。しかし、大雨と風の音でスピーカーの音はかき消され、走るのが早くて聞き取ることもできず、「聞こえない」「聞こえろ」と思ったらもう通りすぎていたなどの声がありました。

②災害関連情報

町では、無料入浴、給水所などの情報をまとめた災害関連情報を給水所、避難所、病院などに掲示しましたが、「掲示物の文字が小さく見づらい」、また、ホームページにも情報を掲載しましたが、「携帯電話を持っていない人はどうするか」などの声がありました。

災害にあたって、様々な対応をしてきましたが、こうした課題をはじめ、今回の対応に関する反省点については、検証委員会などを設置の上分析し、今後の災害対応につなげていきます。

町内会だよりや近所での情報共有

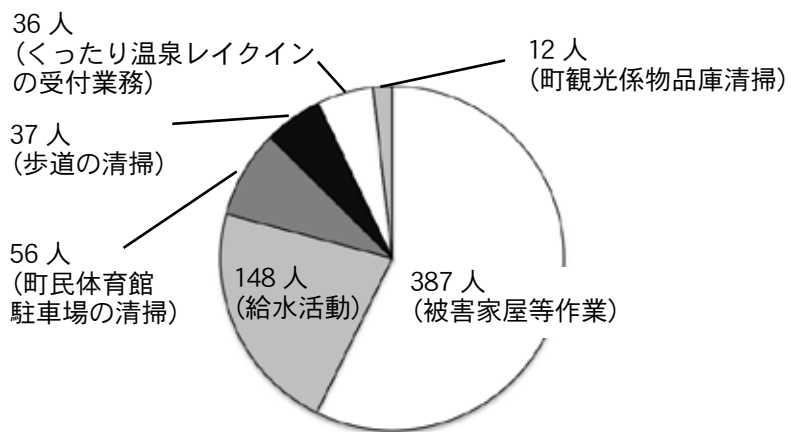
その一方で、町内会単位での活動により災害関連情報を町内会だよりとして作成・回覧し、会員に情報提供しているところや、日頃から町内会活動や近所とのコミュニケーションを取っている方は隣近所の方から情報を得るなど、地域の住民同士のつながり（コミュニティ力）により町からの情報伝達の漏れをカバーしていました。

必要なのは住民同士のつながり（コミュニティ力）の向上

今回の災害を通して見えてきたことは、行政がするべきことをしっかりと行い、改善する部分は改善するのはもちろんですが、町内会での給水、町内会だよりの発行など、出歩けない、情報も入ってこないといった人には町内会単位での活動や、住民同士のつながりによる助け合い（地域コミュニティ力）の向上が災害時の被害の縮小に有効であると考えられます。



多くの方が泥出しや家屋の内部清掃などを行った



ボランティア延べ人数・活動内容